

【資料1】

令和7年度 第1回 西区政策会議

令和7年6月9日
西区役所政策推進室

目 次

1 会議の趣旨	・・・p1～2
2 計画策定に向けて	・・・p3
3 計画の基本姿勢	・・・p4～5
4 計画の基本方針	・・・p6～7
5 西区 区民アンケート結果の概要	・・・p8～9
6 計画の基本方針の内容	・・・p10～13

1 会議の趣旨

(1) 西区政策会議とは

堺市区政策会議に関する条例（抄）

(趣旨)

第1条 この条例は、**区民等の意見を反映しつつ、区ごとの実情及び特性に応じた政策形成を進め、もって特色ある区行政の実現に資する**ため、区における区政策会議の開催等に関する基本的事項を定める。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 区民等 区の区域内に住所を有し、又は当該区域内に存する学校、事業所等に通学し、若しくは通勤する者及び当該区域内において公益的活動、事業活動等を行う者をいう。
- (2) 区政策会議 区の区域内において市が実施する施策等について、次条第1項各号に掲げる者から意見を聴取するために開催する会合をいう。

(2) 西区政策会議（第3期）

期 間：令和7～8年度の2年間

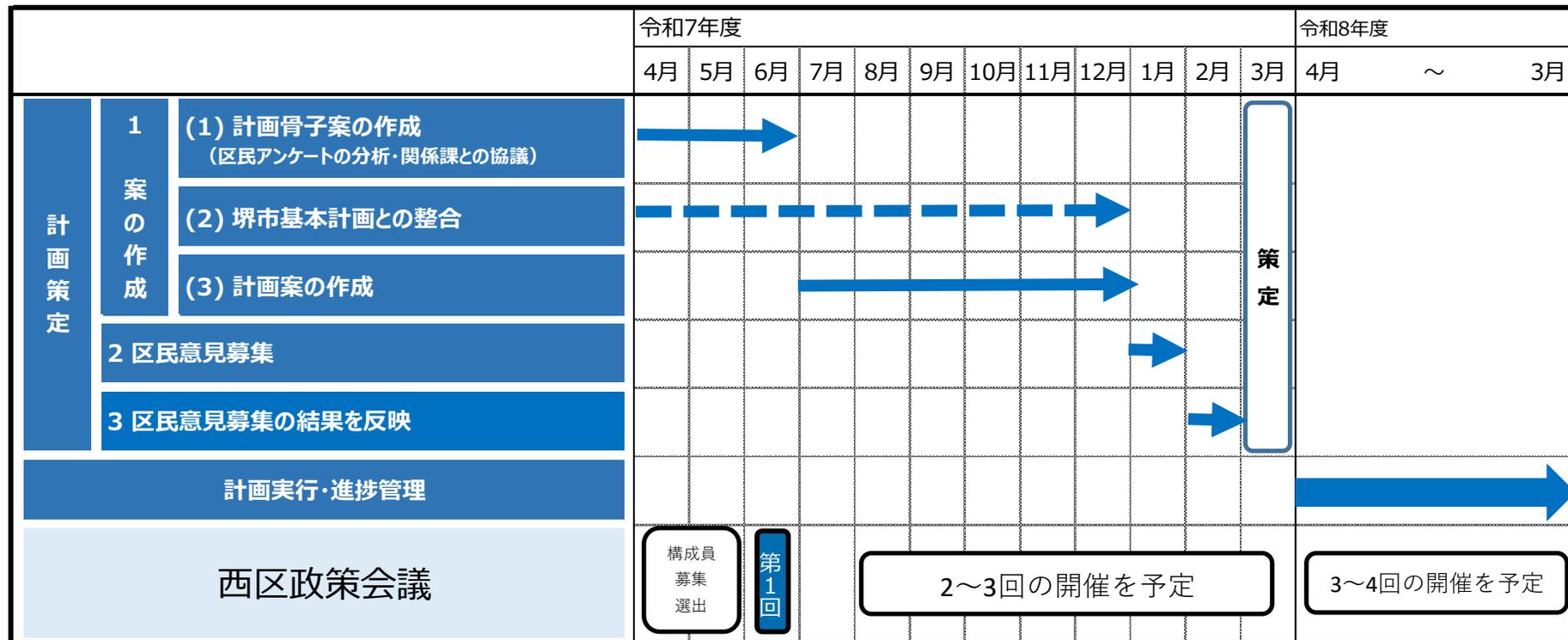
構成員：20名（【参考資料1】配席図、【参考資料2】構成員名簿のとおり）

テーマ：区基本計画の策定及び施策・事業提案

内 容：テーマに関して構成員から意見をいただき、西区の実情及び特性に応じた政策形成を進める

1 会議の趣旨

(3) 西区政策会議（第3期）の流れ



(4) 令和7年度第1回会議の目標

(仮称) 西区基本計画の基本方針を共有し、西区のめざすべき将来像を見据えた重点施策、取組の方向性をまとめる。

2 計画策定に向けて

(1) (仮称) 西区基本計画の位置づけ・体系

人口減少・超高齢社会、高度情報化、DXの進展、気候変動や南海トラフ巨大地震などの自然災害への脅威、こどもを取り巻く環境の変化、不登校児童生徒の増加、特殊詐欺被害の増加など社会情勢の変化を受け、多様化するニーズや価値観に対応した都市経営、住民サービスが求められている。

堺市基本計画

位置づけ：市政運営の大方針（市の最上位計画）

都市像「未来を創るイノベティブ都市」を掲げ、5つの分野を重点戦略に設定、各分野で取り組むべき方向性を示した計画

各分野の個別計画

堺市基本計画の方向性に沿って、各分野の具体的な内容を示した計画

地域福祉計画、健康プラン、各種保健・福祉に関する計画、こども計画、スマートシティ戦略、地域防災計画など

(仮称) 西区基本計画

堺市基本計画を補完し、各分野の個別計画との整合性を図りながら、西区の地域特性に応じた取組を実施するための計画

西区の
めざす将来像

持続的に発展する「住みたい、住み続けたい」まち
ひと・まち・資源がつながり笑顔かがやく西区

2つの基本姿勢

地域共創
～地域との連携・協働による課題解決～

デジタル社会との調和

4つの基本方針

健康習慣の定着

子育て環境の充実

安全・安心の確保

地域魅力の共有

(参考) 西区まちづくりビジョン 「ひと・まち・資源がつながり笑顔かがやく西区」 H23年2月策定、H28年2月改定

西区みらい指針 「ひと・まち・資源がつながり笑顔かがやく西区」 同ビジョンの理念を継承した行動指針 R3年4月策定

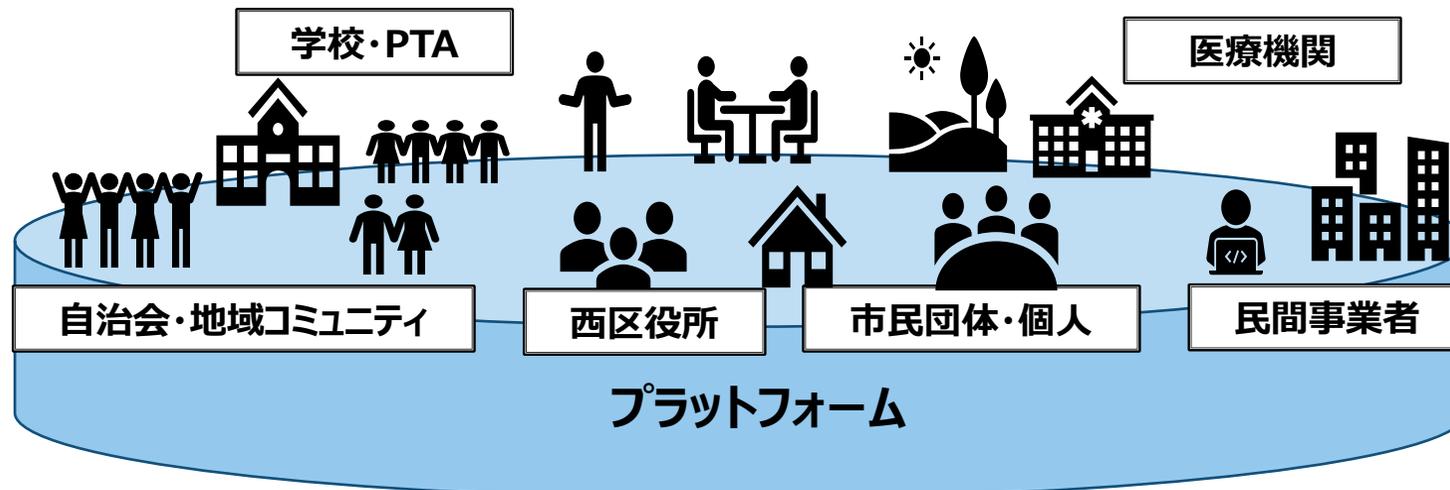
3 計画の基本姿勢

(1) 基本姿勢1 地域共創 ～地域との連携・協働による課題解決～

人口減少と高齢化により生産年齢人口の減少が進み、経済活動や地域活動等の暮らしを支える担い手の確保が課題である。多様化する地域課題に行政単独で対応することが困難な時代であり、スマート自治体への転換が求められる。そのため、自治体はサービスプロバイダー（住民サービスの提供者）から**プラットフォーム・ビルダー（官民の新しい協力関係を構築する土台や場をつくる者）**へ転換し、地域で活動する主体（自治会、市民団体・民間事業者など）どうしが連携し、協力し合える仕組みが求められる。

地域とともに未来を創る

- ・住民に最も身近な行政機関である西区役所が住民ニーズを把握し、地域と思いを共有しながら、ともに魅力あるまちを創造
- ・西区役所がプラットフォーム・ビルダーの役割を担い、地域の活動主体と連携・協働することで相互に機能を向上



3 計画の基本姿勢

(2) 基本姿勢2 デジタル社会との調和

ICT（情報通信技術）の急速な進展によるスマートフォン、ソーシャルメディアなどの普及、またAI（人工知能）技術の進化などに伴い、住民のライフスタイル、ワークスタイルが多様化し、生活の利便性の向上や産業面における効率化、生産性の向上もたらされている。

区役所においても、**ICTを積極的に活用し、業務の効率化と効果性を高め、より便利できめ細かい住民サービスを提供**する。一方で、**対面による対応が必要なサービスも多く、インターネット等を利用しない区民への配慮**（デジタル・ディバイド解消のための対応）も欠かせない。

デジタル技術の活用による 区民にとって利便性の高いサービス提供

(例)

- ・ 電子申請、証明書のコンビニ交付、Web相談や会議、AIの活用など



アナログ対応による 区民に寄り添う相談・支援

(例)

- ・ 窓口での丁寧な説明、支援を必要とする区民に寄り添った訪問相談・面談など

きめ細かい質の高い住民サービス

区役所に行かなくても、
スマホで手続きできて
便利だなあ



区役所で
気軽に相談してください！

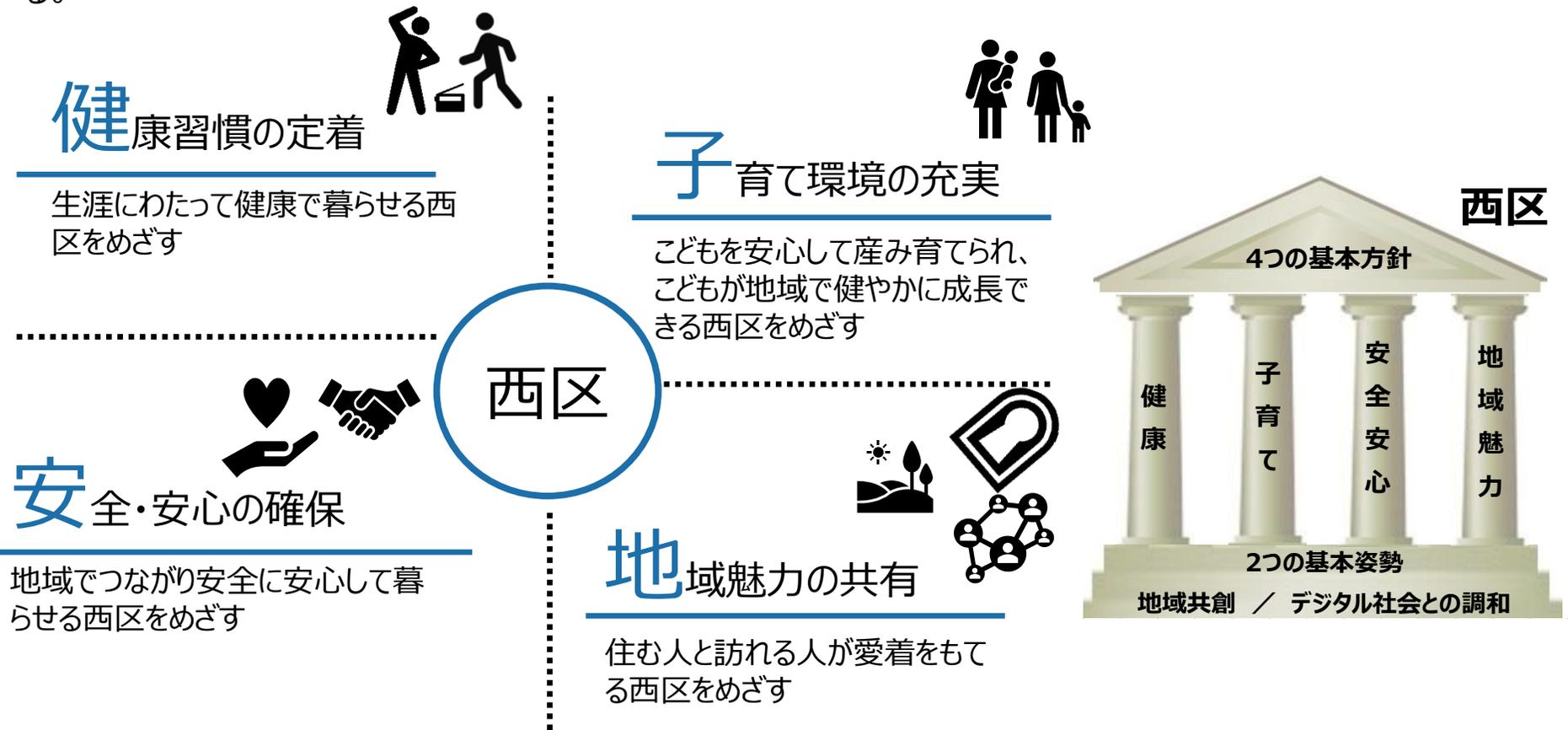


家庭訪問や出前講座など
地域へ出かけて支援します

4 計画の基本方針

(1) 4つの基本方針

地域との連携・協働、デジタル社会との調和の2つの基本姿勢をもって、区民の生活に不可欠な4つの要素を基本方針に設定し、区民と一緒に西区の将来像「住みたい、住み続けたい西区」をめざして取組を進める。



4 計画の基本方針

(2) 基本方針の体系



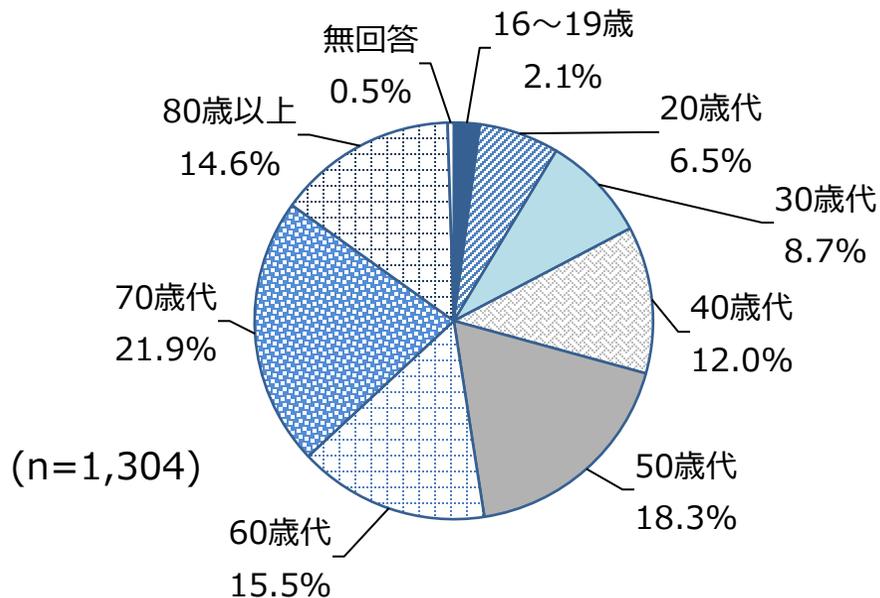
5 西区 区民アンケート結果の概要

(1) 調査概要

(資料3 結果報告書参照 P1~4)

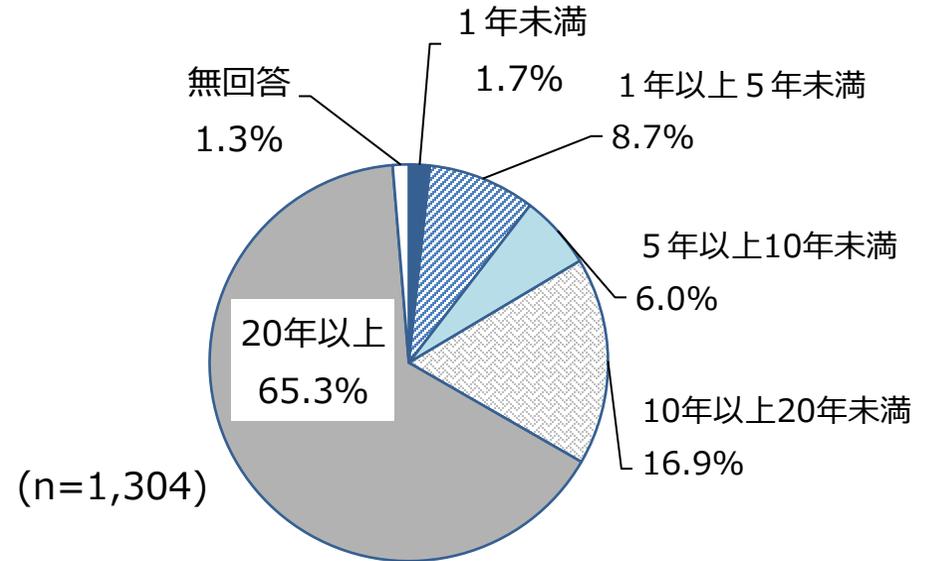
- ① 調査内容 まちの魅力、健康、子育て、安全・安心、市民活動、自治会活動、西区の情報発信に関することなど
- ② 実施期間 令和7年1月17日（金）～2月21日（金）
- ③ 回答者の属性（有効回答数1,304人の内訳）

年代



「70歳代」が21.9%と最も多く、次いで「50歳代」が18.3%、「60歳代」が15.5%、「80歳以上」が14.6%

居住期間



「20年以上」が65.3%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が16.9%、「1年以上5年未満」が8.7%

5 西区 区民アンケート結果の概要

(2) 区政全般にわたる回答

(資料3 結果報告書参照 P5～11)

西区の何に良さを感じているか確認するため、転入理由、住みたい/住みたくない理由を質問

[問4] 「1年未満」「1年以上5年未満」「5年以上10年未満」の人が西区へ転入しようとした理由

- ①「買い物などがしやすく生活が便利だと思ったから」33.6%
- ②「通勤・通学など交通の便が良いと思ったから」32.7%
- ③「住宅環境が良いと思ったから」28.0%
- ④「仕事の都合・家庭環境等でやむを得なかったから」26.6%

[問5] 今後も西区に住み続けたいと思うか

- ① **「住み続けたい」73.3%**
- ② 「どちらともいえない」22.1%
- ③ **「住み続けたくない」3.1%**

[問6] 「**住み続けたい**」と回答した理由

- ①「土地・住宅を所有しているから」59.6%
- ②「買い物などがしやすく生活が便利だから」56.4%
- ③「通勤・通学など交通の便が良いから」36.7%
- ④「治安が良いから」29.0%
- ⑤「自然や公園、街並みなど地域の環境が良いから」28.8%

[問7] 「**住み続けたくない**」と回答した理由

- ①「災害の不安があるから」25.5%
- ②「買い物などがしづらく生活が不便だから」20.4%
- ③「治安に不安があるから」17.6%
- ④「娯楽施設が少ないから」16.4%

(3) 4つの基本方針に関する回答

(資料3 結果報告書参照P12～37)

6 計画の基本方針の内容

基本方針1 健康習慣の定着



現状

【アンケート結果のポイント】（資料3 問8～12）
健康維持に向けた対策・フレイル予防は、年代ごとに差がある。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】
ライフステージごとに課題が異なるので、乳幼児期以降、年代に応じた、重層的な普及啓発を続けていくことが望ましい。

【アンケート結果のポイント】（資料3 問8～12）
どの年代にも健康行動に関心のない人は一定数いる。
40歳代以下のビジネスパーソン世代で健康維持のために特に心がけていることはないという回答する方が多くなっている。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】
・「心身ともに健康」とは、「楽しい」「無理なく続けられる」といった広い意味でのウェルビーイングを指すと考えられるため、楽しみを伴う活動を普及啓発していくと良い。
・ウォーキングイベントは、ただ歩く目的だけでなく「気が付いたらこんなにたくさん歩いていた」と感じられる工夫をすると良い。

計画（案）

重点施策① 「世代に応じた健康管理の支援」

（現在の取組例）
健康維持・増進、食育、フレイル予防などの教室の開催、各種検診の実施など

重点施策② 「健康行動を促す機会の提供」

（現在の取組例）
ウォーキング大会、ディスコン大会などのイベントの開催

生涯にわたって健康で暮らせる

6 計画の基本方針の内容

基本方針2 子育て環境の充実

現状

【アンケート結果のポイント】（資料3 問15）
 子育てしづらい理由として「助けてくれる人や相談できる人が近くにいない」など孤立化を招く3項目を掲げる人が全体の40%を超えている。

【アンケート結果のポイント】（資料3 問16）
 区役所の子育て相談窓口を利用したいかどうかについて、40%近くの人が「どちらともいえない」「あまり利用したくない」と回答しており、相談したいときに相談窓口につなげられる仕組みが必要である。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】
 多世代が交流できる機会を作ると子育て環境の充実や健康の促進にもつながると思う。

【堺市子ども計画・未来をつくる堺教育プラン】
 こどもが夢をもって自分らしく成長し、自立と社会参画を促すことが求められている。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】
 こどもが自分たちでまちを考える、参画するきっかけがあると良い。体験により当事者意識が増すので、共感・体験できる場があれば良いと思う。

計画（案）

重点施策① 「子育て世帯が地域でつながる機会の創出と支援体制の強化」

（現在の取組例）
 子育て支援イベントの開催
 「ほほえみルーム」の運営
 西区子育て支援関係者会議運営委員会の運営など

重点施策② 「こどもが主役になれる場の提供」

（現在の取組例）
 「こどもチャレンジフェスタ」
 「中学校合同演奏会」「西区長表彰」など、こどもの主体性を促進するイベントの開催

理想

こどもを安心して産み育てられる
 こどもが地域で健やかに成長できる

6 計画の基本方針の内容

基本方針3 安全・安心の確保

現状

【アンケート結果のポイント】（資料3 問17～18）
生活圏域によって災害リスクの把握状況、災害リスクへの備えの内容が異なる。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】
自治会でも校区間での助け合いについて考えてくれている。小学校区にとどまらず、区域を広げた連携について検討してほしい。

【アンケート結果のポイント】（資料3 問19～20）
事故や犯罪に対する不安感は、特に30～40代の間で高い傾向がある。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】
犯罪抑止に、コミュニティが力を発揮する。地元の声のかけ合いは重要である。

計画（案）

重点施策① 「防災・減災力の向上」

（現在の取組例）
防災マップ（西区版）の配布
広報紙等による防災意識・備えの啓発
自主防災組織の活動に対する支援
区災害対策本部の設置・訓練など

重点施策② 「交通事故・犯罪のない地域社会の実現」

（現在の取組例）
警察署や交通安全協会・防犯協会と
連携した啓発活動など

重点施策③ 「地域の福祉を支える環境の充実」

（現在の取組例）
多機関協働事業（ニシクル！）

理想

地域でつながり安全に安心して暮らせる

6 計画の基本方針の内容

基本方針4 地域魅力の共有

現状

【アンケート結果のポイント】（詳細は資料3の間4）

転入理由について、「市民活動・イベントが盛ん」と答えた人のうち居住期間が転入から1年未満の人の割合が高い。また、「祭りや行事が活発」と答えた人のうち10代の割合が高い。

【アンケート結果のポイント】（詳細は資料3の間29）

区役所が発信する情報は、世代により必要と感じる情報が異なる。年代別に応じた、発信する内容を精査し、適時にきめ細かな発信をする必要がある。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】

歴史的な地域資源を、住民が三世代にわたって自身の思い出や遊びの体験などとセットして地図に載せるといった事例がある。多世代が一緒に楽しめ、地域への愛着も芽生えるので参考になる。

【区としての考え方】

西区に魅力を感じ、愛着をもつ人が自ら西区の魅力を発信する仕掛け、区民が参画し西区の魅力を広めていく仕掛けや企画が求められる。

【令和6年度第3回会議での意見（抄）】

地域資源をネットワーク化して区民間で共有されることで、もっと地域魅力の発信も奏功すると思う。パッケージ化（関係のあるものをひとまとめにすること）がポイントである。

計画（案）

重点施策① 「西区の魅力の再発見と浸透」

（現在の取組例）
西区ふれあいまつり
西区散策マップ
だんじりパレード
魅力発信
（広報紙/HP/SNS）

重点施策② 「西区ファンの拡大」

（現在の取組例）
区民と協働した魅力発信
西区写真展
Instagramの#投稿

理想

住む人と訪れる人が愛着をもてる